

令和5年度 第10回

日南市教育委員会

会議録

令和5年12月21日(木) 午前10時から
日南市役所・別館2階会議室6

- 1 会議の名称 令和5年度教育委員会 第10回会議（定例）
- 2 会議日時 令和5年12月21日（木）
午前9時55分から午前11時20分まで
- 3 出欠確認
 - （1）出席委員 都甲政文 黒木由香 別府信一、八木真紀子、佐藤泰信
 - （2）事務局 教育部長兼学校教育課長
学校教育課学校教育担当監
生涯学習課課長
学校教育課課長補佐兼教育係長
学校教育課管理係長
学校教育課管理係主査
- 4 場所 日南市役所・別館2階会議室6
- 5 傍聴者 0名
- 6 開会
【都甲教育長】
「それでは、令和5年度第10回日南市教育委員会定例会を始めさせていただきます。」
- 7 出席者及び傍聴者確認

【都甲教育長】
「出席者の確認をいたします。教育委員5名全員出席でございます。事務局の出席者の確認をお願いします。」

【田中部長】
「事務局は、全員出席です。」
- 8 活動報告
 - （1）教育長活動報告

【都甲教育長】
・11月25日、算数エンタがございました。宮大の学生さんが来てやってくれるわけです

けど、今年も 40 名程来てくれまして、準備をしっかりして本当優しくですね丁寧に接してくれました。子ども達も 20 名程、もうちょっとかな参加してたんですけど、笑顔で楽しく算数に親しんでくれました。

・11 月 26 日、小村寿太郎侯墓前祭がございました。今年は黒木委員と 2 名で参加させていただきました。郷土の偉人に思いを募らせたところでした。

・それから同日、SDGs ワークショップ報告会があったんですけど、これは日南市がですね、高校生を対象にして外部人材を活用した地域を考えるワークショップを年間通してやってたわけですけど、まとめの発表会に行きました。高校生という若者の視点でですね、故郷日南を考えたものを発表してくれました。中学生の集まるわかすぎ塾、ここからですね繋がっていく取り組みになればなと思って、わかすぎ塾でもぜひ PR しておきたいなと思った取り組みでした。

・11 月 27 日、29 日、これはずっと続けておりました税の作文コンクール表彰式で南郷中と鶴戸中、合計市内 7 つの中学校に表彰で訪問させていただきました。

・11 月 28 日、12 月 19 日、学校単独訪問、桜ヶ丘小学校と南郷中学校でした。また行ってきた委員の皆さんから後で感想をお願いします。

・11 月 29 日、校長会でした。今年 150 周年をやったのが大窪小と飢肥小、周年事業やったわけですけど、周年事業はいろいろやる方にとっては苦労があるんですけど。記念事業をやるっていうね生きがいを感じて取り組む、予算も自分から、私はですね、日向の学校で 30 年 40 年という小学校中学校ですけども、そういうのを経験してとてもよかったので、そういう気持ちでやってくれていうことを話しました。それから、学校いろんな案件で外部との連携をすることもあります、その時のやっぱり校長の姿勢次第だと、校長が協力的な態度を取らないと、なかなか外部との連携は難しい話をしました。最後に後で出ますけど、事務所との人事ヒアリングが迫ってきたわけですけど、しっかり準備を怠らないようにというふうに伝えました。

・12 月 3 日、退職校長会がありました。冬季研修会です。20 名程参加がありまして、今年ですね、南郷中学校の校長で退職された大木先生がですね、退職後、なんと釜山日本人学校に行かれまして、派遣事業でその経験を講演されました。その後、久しぶりに懇親会があったんですけど、市長も残ってくれてですね、いろいろ話の花が咲きました。

・12 月 5 日、教育事務所のヒアリングです。校長も来てくれたわけですけど、先程も言いましたようにしっかり異動対象者、異動希望者の状況を説明してくれました。

・12 月 11 日、令和 6 年度働き方改革説明会及びモデル校実践発表会。働き方改革の一つとしてですね、フレックスタイムの導入を考えています。つまり時差出勤ですね。朝早い人で 7 時、遅い人で 9 時ぐらい、4 パターンぐらいそういうのを考えてるんですけど、モデル校として飢肥小、飢肥中、東郷小中ですねお願いして約半年ぐらいやってもらってたんですけど、その成果と課題をですね、校長先生と教務主任にみんな来てもらって、市内の学校発表してもらってたんですけど、概ねですね導入して欲しいという話

でした。ただ、やっぱり取りにくい先生と取りやすい先生とかですね、あと中学校の部活との兼ね合いとかもあるんですけど、そこら辺は整理してできれば来年の4月から導入したいなと思っています。

・12月14日、北郷地区の自治会。これ新聞でも出た通り、旧黒荷田小のイチョウの木のこと、うちとしては危険樹木として判断して伐採したわけですけど、いろんなところからもう反発の声が上がってですね、自治会の月例会に私と部長と上村補佐で行って、経緯を説明して頭を下げて来ました。そしてぜひにっていうか、必ず1月末に今度は黒荷田地区に行って住民説明会をしてくれということで予定をしています。

・12月15日、吾田小学校合唱部がまた全国2位という成績を収めてくれましたので、6年生9名が報告に来てくれました。突然アカペラで歌ってくださいと言ったら、綺麗な歌声で聞かせてくれてですね、とても良かったです。

・12月16日、毎年のことなんですけど、県の市町村対抗駅伝競走大会の結団式に行ってきました。市長も参加したんですけど、市長も私もしっかり練習して、去年の県内の市の部で5位だったんですね、これ以上の順位をですね頑張って取ってよというような形で激励しました。

・12月18日、令和5年度の学校における働き方改革推進協議会。これ、県教委の教職員課がですねやってるものなんですけど、それに県内9市の教育長の代表として参加してくれないかということで参加しました。それぞれ県立の方の関係の所、義務制ですね、我々の場合、校長会とかPTAとか中体連とか、そういう人達の代表が集まったわけなんですけど、三つ話し合いました。「家庭地域との連携と役割分担の明確化」「勤務時間外の対応」そして「部活動の活動時間及び休業日」の3点について、それぞれですね、例えば校長会なら校長会の立場で、PTAの代表としての立場で、中体連と我々教育委員会という立場でですね、意見を短い時間だったんですけど出し合うことができてですね、私自身も色々勉強になる会でした。

(2) 委員活動報告

【別府委員】

11月29日に共同募金委員会へ助成金の審査を行って参りました。

そして、12月12日、宮崎市の方で教育委員会の意見交換会に参加してきたところです。こちら四つのグループに分かれてグループディスカッションを行ったんですけども、全てのグループがその不登校児童の問題をテーマに話されてたということで、私のグループでも、元教員の方や現役の幼稚園の園長先生、そして弁護士の先生とかソーシャルワーカーの先生方もいらっやいまして、貴重な意見をたくさん伺うことが出来ました。中でもですねやっぱり印象に残ったのが、保護者のその思いをしっかり聞いてあげることの大切さが挙げられておりまして、そのためにもやっぱり多くの機関や専門家との連携を深めていく必要があるという内容にとっても共感したところでした。

連携というのがやっぱり一つのテーマになってるなというところで、フリースクール

の議題もありまして、ある市町村では、フリースクールができることによって、そっちの方がいいんじゃないのと、一つに流れる危険性があるので、なかなか踏み込めないという意見もあったりとか。でも、宮崎市で現在やってるところではフリースクールに行った子供が自分に自信を取り戻して学校に戻ることができたという事例もやっぱ多々あるということで、そういった意味でも連携、民間との連携というのがこれから必要になってくるんじゃないかと思ったところです。

あと、12月19日の南郷中学校の学校訪問に伺わせていただきました。こちらの方でも、私の方からは不登校児童に関する質問挙げさせてもらったんですけども、9名中3名の生徒さんが不登校解消の傾向にあるという大変うれしい報告を聞くことができました。で、中でもその理由の一つとして、その毎日欠かさずプリント等を持っていかれて届けていただけたということで、プリントに関しては以前に、月にまとめて届けられてという話も伺ったことがあったので、このような細やかなフォローの大切さですね、その必要性を教えていただいたところです。

【佐藤委員】

私の方は11月28日に桜ヶ丘小の単独訪問に行かせていただきました。私の家の近くで、よく朝近くを通ると、交差点で一つの交差点3人ぐらいいらっやってですね、子ども達の見守りをよくされてるような学校で、地域等の連携が素晴らしく何か良いところだなというふうに思いました。あと、別室の登校なかなか教室に入れないう子どもさんがいるということだったんですけど、スクールソーシャルワーカーの支援もあって、教室に戻るようになっていくということで、やっぱりもう再三出てきますけど連携の大変さ。ただ、やっぱりコロナ禍もあって、なかなかその民生委員の方とかいう方との連携は難しくなってしまったというのもあったんで、これからですねそこ辺がまた改善できるといいですねっていうお話がありました。それから、校長先生がたくさん学校だよりを出されてて、もうまだまだやってない行事がすでに記事になってて、それを先生達に見せると。これは最初見た時には、内容はもう先に作ってお知らせの形というものかなと思ったら、いや違うと。校長のビジョンをあらかじめ先生達にきちんと伝える意図があるんだというところで、ああ、なるほどなと。だから、いろんな形タイプの校長先生がいらっしゃるでしょうけど、やっぱり職員がそして、できれば子ども達もきちんとどういう方向に向かおうとしているのかっていうところを伝えるっていうのはですね、大事なことだなというふうに思いました。

それから、12月12日が県教育委員との意見交換会で、大変刺激的で、もう皆さん本当によくアンテナを広げてですね、いろんなことをキャッチしながら考えてらっしゃるなと思いました。私も不登校のグループだったんですけど、やっぱりいろんな関係機関と連携が大事ということで、みんな同じ思いを持ちながらですね、そこがうまくかみ合うとすごい力になるというのを感じたところです。

一つどうしても気になるのがメディアとの関係ですよ。不登校の子ども達への対応と

か受け皿とかそういう人的なもの、それからお金がかかり施設的なもの、そういう受け皿とか対応も大事だと思うんですけど、そもそも何でそう増えてしまったのかと。いじめもそうだと思うんですけど、そのグループで話した時に、直接的な影響がどれだけあるかというのはまだ不透明なところもあるということなんですけど、やっぱり親子の過ごす時間とか、それから自然体験とか、五感を使っての子どもの時にやっておかなくちゃいけないことがメディアによって削られてるっていうのはやっぱり間違いないんじゃないかと。宮崎市の方は乳幼児の定期健診なんかでもそういったメディアのことも何か話してるっていうふうに聞いたんで、日南市の方はチラシを配ったりはするっていうふうにお聞きしたんですが、学校も以前にやってたのはどちらかというとフィルタリングをしましょうとか、LINEではその友達の悪口は書きちゃ駄目よとか、そういうモラル的なことは私が小学校行った時もやってたんですけど、そもそも体にどんな影響があるかとかですね、そういう育ちに対しての課題というのはあまりちょっと議論されなかったなというのがあって。何かそういう受け皿とか対応策ももちろん進めなくちゃいけないんですけど、そもそも何でこう増えてるのかっていうところを何かしらこう取り組んでいかないと大変だなというのは出た意見でした。科学的になかなか証明できてないところもあるとは聞くんですけど、例えばWHOなんかはもう2歳児までは見せちゃいかんとか、3、4歳児はトータル1時間以内とか、できれば見せない方がいいとか、そういうのがアルコール依存症とか薬物依存症と同じレベルで語られてるんですよ。片や学校は今どんどんタブレット使えていって、それを見る時間はどんどん増えてるわけじゃないですか。だからその辺を、確かに教育的効果はあると思うし個々のなんていうか学習差を埋めるにはすごくいいツールだと思うんですけど、これから社会に出ていく上でも絶対必要だと思うんですが、その成長途中の子ども達にとってどうなのかっていうのが結構そこで話盛り上がってますね、アルコールなんかも20歳になったらちゃんと自分がコントロールできるんで飲むと。お酒もですね。だけどメディアはそういった自制がきかない。0歳の時から触れてるわけですから、そこはどうなんだろうねっていうのはちょっと盛り上がりました。

【八木委員】

私も12月12日、宮崎・南那珂地区と県の意見交換会に参加してきました。先ほど言われたんですけど本当やっぱり皆様不登校についてということが議題として一番取り上げられて、それを大変な問題なんだなって深く改めて思いました。その中で宮崎市の取り組みなんですけど、自然体験の多い大淀学習館の中の緑の学舎です。サテライト教室。そういうのをやって不登校の支援をしている。また関東の方に視察されて、不登校の教室に通うというのはリスクがありますので、校内に支援員のいる支援教室を各学校で作るという取り組みいいなと思いました。また、綾町の方はSNSの子ども相談室というのを作って対応されてると。そういう取り組みをこれからされるというお話を聞きました。不登校ってのは家庭の対応策としては家庭教育の向上とか、子ども達の感性を

高める地域のコミュニティというような繋がるとか繋げる大人のスキルを持つっていうことが一番大事だというのが、本当そうだなと思いました。やっぱりこう受けて繋がることは大事だなといろんな人がですね、それを繋げるためにやっぱり動くっていうことが大事かなと思います。

あと、宮崎市の教育委員会の方が、県内である程度の基礎を共有しないと先生達が大変なんじゃないかというので、ICTの格差も今ありますし、宮崎市とかすごいペーパーレス化を図ってるんですね。なんか市長がすごいらしいですね。そういうことも日南市はどうですかね。これからそういう方向とかもある程度の足並みをそろえなければいけないのかなというのを感じました。

【黒木委員】

私は、11月26日に教育長と一緒に寿太郎侯の墓前祭に参加させていただいて、もう命日ということで121年ですかね、そんな昔の見なくなったそんな時代にどんなふうな景色を見て、こう語られてきたのかなと思ってすごく清々しい時間を見させてもらったんですけど、こういった偉人が地元にいるっていうことがやっぱり子ども達に受け継がれて、子ども達がもっと知ることまた一つそういった機会があるといいなと思いながら参加させていただきました。

28日に桜ヶ丘小学校の学校訪問行かせていただいて、ちょっと深い悩みを問題を抱える家庭もいらっしゃるなというところで、こういったところが本当先程から話に出てる連携も先生方だけではもう対応できるところではないところがあるので、あそこも先生方の負担軽減であったり、いろんな方面からやっぱその子を見るというその過程を見るっていうことも大事なんじゃないかなと思いながら過ごさせていただきました。

12日は私ちょっと残念でした。もう娘から来てしまったのでちょっと防ぎようがなく、頑張ってたんですけどやっぱ罹ってしまって、でもちょっとこの時間も自宅から決して出ないということで、ちょうどこの日暖かかったので、お兄ちゃんにうつらないように私達は感染者が外でお庭で過ごすって、朝は暖かかったからそういう過ごし方ができてよかったんですけど、なんかよかったなと思って。このメディアの話もあったんですけど、やっぱり試しに私1回娘にすごい好きなテレビを見させながらご飯を食べさせたら、嫌いなものをパクパク食べるんですよ。口開けて感覚がないんだなと思いながら、そういうことだなと思って。もうわかんないんですね、嫌いなもの見てもないし、味もわかってないし、こっちに気に入ってるから、感覚が全然そういう時って働いてないんだなっていうなんかこう、やっぱり見て嫌いで食べてこれ好きかもとかそういうのも全くなく、そこに集中してしまってるのは怖いなと思いながらそういった時間を過ごしたり、地面に寝転がって雲が流れてるとかそういう何かこう発見を彼女なりにしたり、バッタやカマキリを捕まえたりして、カマキリ捕まえた時に引っ掻かれたんですよ、だからバッタやカマキリの差をやっぱり見ただけじゃちょっと緑のピョンピョン飛び跳ねる昆虫だけど、実際自分で触ることでカマキリって攻撃してくるんだなみたいな、バッタはかわいいねみたい

な感覚も、自分できちんとそういう感覚をつかめるところからやっぱりこう見る、そういう本当に成長過程にある子ども達は、ちょっとメディアとかではなく実際そこで五感を使って見て触ってそういう感覚を養うことってのは、そこがあってこそメディアをきちんと使いこなせてここから先はっていう感覚がわかってくるんじゃないかなと思うので、小中学校に行くにあたってそういうメディアを使うと、SNSそういった今から必要になってくるものももちろん必要になるので、幼稚園とか小学校低学年はそういった五感を養うっていうところにフォーカスしたほうがいいのかなというふうに思いました。

19日の南郷中学校の単独訪問でも、タブレットの使い方がやっぱり子ども達すごい密な教室でちょっと久しぶりに私もぎゅうぎゅうの教室入ったんですけど、先生方が一人だと、その子ども達がタブレットで何を見てるかがちょっと把握できないっていう現状もあったりして、むしろ先生方が二人いればちょっと後ろからも見れるんだけど、そのタブレット先生から子ども達を見るとタブレットの裏側しか見えないので画面が見えてないので、そういったところでタブレットの使い方も南郷中で工夫されていて、持ち帰りもありされていないようでした。先生達のそういったものを使いこなす力の差もあったりするというので、まだまだ課題はあるんだろうけど、やはりこういったものは子ども達の方がスキルに関しては上がっていくなというふうに感じたところでした。

あと、支援センターの南郷分校ができたということで、こちらの先生方がすごくありがたいというふうにおっしゃってたので、南那珂大堂津細田地区辺りまでそういったところに広がるとまた、すごい図書館もあって広場もあったりするのでよく活用してもらいたいなというふうに思いました。

【都甲教育長】

小村国際塾の6年生が東京に行って、東京の青山墓地に墓参りして、墓を掃除してですね、その記録、感想があったんですけど、初めて知ったんですよ、飢肥の墓地は遺髪しかないそうですね。お骨は青山らしいですね。そうやって書いてました。だから、分骨はせずに遺髪だけだったんだな、そういうのをなんか子ども達も学ぶみたいです。

不登校に関して12日の会はですね、やっぱり県教委の担当の課長補佐にちょっと連絡して聞いたんですけど、本当に非常にいい会だったと、ちょっと盛り上がって飲み会の方もですね、なんか宮崎の教育委員さんがわざわざ皆さんを見送ってくださったようです。

【八木委員】

今度夜間中学校ができるじゃないですか。でも県内みんな行けるそうですね。宣伝したらいいのかなと日南の人もね。

【都甲教育長】

だからあれももう見学に行かないといけないですね。ちょっと夜になるかもしれないけど、何かちょっとうまく工夫できれば、せっかく出来上がってましたね、外国人も何人

か入るみたいですし。

9 前回の議事録承認

第9回の議事録について了承

10 研修

「特別支援教育についての現状と取組」 福島指導主事説明

【別府委員】

本当に一人ひとりの個性がやっぱり、多様な環境というのは必要なんだなと思ったところなんですけど、やっぱりそうなんか連携という話が出てきたところで、小学校から中学校に上がる時には、小中学校の連携ということはあると思うんですけども、中学校卒業するときに、先生方どういった連携の取り方をしているのかというのと、また、どういった進路をこの子達は歩んでいってるのかなというところが分かる範囲で教えていただければと思います。

【福島指導主事】

中高連絡協議会もごさいますし、個別の教育支援計画につきましては、小学校から中学校、そして中学校から高校に行く際も引き継がれるものになりますので、こちらに実際に必要な支援でありますとか、どういった機関と連携していくのかというような情報も全て入っておりますので、そちらを引き継いでいくことで、卒業後の進路先でもですね、十分な支援が受けられるような体制づくりをというのはしています。

まず、就学先につきましては、それこそ日南市教育支援委員会の方に諮りまして、そちらで実際にどのような支援が必要だということを提言させていただきながら、特別支援学校への就学が必要だとか、或いは通常学級っていうか、通常の学校への就学が必要なのかっていうことを保護者の方とも教育相談をさせていただきながら、この子達に必要な学びの場というのもお示しさせていただいているところです。

また、日南くろしお支援学校につきましては、その入学前に、事前にですね家族に行っていただいて、その子の状況とかしっかりと教育相談で話しさせていただきながら、実際に4月からどういった支援を受けながら学んでいけるのかっていうような体制づくりも行っております。

【都甲教育長】

基本的なことなんですけど、情緒障がいの学級は他の通常っていう学級と同じことを勉強するんですよね、基本的には。

知的な場合は、特別支援学校なんかに行くわけですよ。

だから、その情緒学級の時には、対人関係のスキルを学ぶために担任がする場合もあり

ますけど、基本的にはやっぱり国語や算数とかは同じように勉強する。そういうことらしいですね。だから以前よりは、中学校からすると高校がそういう理解を進めてくれて、なかなか以前は入試の前はそういうマイナスの情報みたいな形になる場合もあるからあんまり伝えなかったんですけど、高校側がそういう情報があったら先にくれないかということですね、そういう連携してますね。

【別府委員】

高校進学に行ったとしても、やっぱりそこら辺がちゃんと話が通ってるからスムーズに子ども達も学べる環境があるんですよ。

【福島指導主事】

実際高校の方にも通級指導教室がございますので、支援学級はないんですけれども、中学校までのうちにそれこそ人間関係のスキルを高めていただいて、高校では週に1回とか2回程度通級を利用してまたスキルを高めていくというような、その事情によってですね、情緒障がいに関してはそのような取り組みが現実になされてますし、少しずつ高校の先生方もそういった知識を見ていただきながらどんな支援が必要なのかっていうのを考えていただける雰囲気が出来上がりつつありますので、それが情報提供できれば中学校からもどんどん進んでいただいている。

【別府委員】

具体的な話であって、日南学園では情報科ってそういったクラスがあるっていうのを知ってるんですが、振徳も日南高校も今現在あるんですか。

【福島指導主事】

振徳高校は通級指導拠点校ですので、通級指導教室がございます。
日南高校はまだ今のところないです。

【都甲教育長】

さっき最初に出た学級設営、以前はこういうことなんかない時代はもうすごかったんですよ。学級設営って学級担任が前にいろんな張り物してですね、学級目標とか、もう今行ってもらってわかるんですけど、もうさらっとして何もないですね今。結局それぐらいもう気が散るものたくさんあったんで、学級担任としてはみんなそういういろんな情報前に置いたほうがわかりやすいです。時間割とかですね。

【八木委員】

今日のニュースで特別支援学校に通う生徒が全国で15万人って、去年より2,000人が3,000人の間だったんですけど増えてるというニュースが出たんですけど、少子化でどん

どん子どもが減ってる中で、この増えてる理由って何でしょうかね。日南市も増えてるっていうか根本的な何かあるのか、それともそういう分ける教育になったのかなと。そういうちょっと特殊な子は分けるから増えているのか、どうなんですかね、今原因。

【福島指導主事】

詳しい原因につきましてはちょっとわからないところあるんですけど、実際の先生方が子ども達に必要な支援があるということを見抜く力が高まってきてるのも事実だなというふうに思います。小学校の時ですとか、中学校で支援が必要、実際には必要なんですけども、静かにその場にいるから全然手がかからないとなると困っていないのはいかっていうふうに先生が把握しきれなかった子ども達もいるということで、そういったところにも先生方が今アンテナを張っていただいて、実際にこの子にはとりあえずこういう支援が必要なのではないかというようなことにも気づいてきている状況がございますので、そういった点からも支援が必要な子達が増えてきているっていうのは一因としてはあるのかなと。

【佐藤委員】

今も関連するんですけど、やっぱり幼稚園に勤めてるとですよ、結局3歳4歳の子どもって、生まれてすぐコロナ禍、人との接触が少なくて、やっぱりお父さんお母さんが他人と接触しないと子どもは接触しないからですね。だから大人が接触しなかった分子ども達にもそういう人的な接触が少なくて、さっき言ったようにメディアがお友達って、もう明らかにですよ違ってきたなと思うんですよ。やっぱり落ち着きがない子とかすぐ癇癪起こす子とかなかなかケアがないとか、だからもう子ども達は変わってきてるなって。その原因が一つじゃないと思うんですけど、やっぱりメディアとの接触は大きいと思うんですよ。それで確実に本当リアル体験は減ってるわけだから。そこはだからさっきも言いましたけど、教室を増やす、支援教室を増やす、支援員を増やすということも現状必要なんですけど、不登校と一緒にやっぱり自分の考えとかは言葉を獲得してないと考え整理できないと思うんですよ。言葉獲得するにはさっきのバツタと本当そうですよ。辞書でバツタって見て、これカマキリだけじゃなくて実際触ってわーっやられたとか、合わせたその風景、草むらにいて空に雲が流れてて、そういうのでいろんな何か情報を獲得してこそ、言葉が豊かになって、僕は今日気分がすぐれないっていうことを何か「だる」であるとか短い言葉で言うんじゃないくて、こうこうだからこうこうなんですっていうのが言えるようになってくると思うんですよ。そこが非常に今抜けてると。そういうのから自分の状態言えないんで不登校になってしまったり人とのコミュニケーションが取れなくて発達障がいと診断されてしまうというケースも、いくつか講演会行くと非常に言われるんですよ。だから、本当に発達障がいではなくて、発達障がいと間違われてるメディア障がいというか、そういうのだったり、そこから来る睡眠障がいだったり、やっぱり本当幼稚園でも12時に寝ましたとか11時寝ましたっていう子がいますから。朝登園してきて、

10 時頃になって寝る子がいるんですよ。で、すっかり寝てるんですよ。これどういうことって、やっぱりそんな遅くまでお父さんと一緒にゲームやってたのかなんですよね。だからそれはもう明らかな睡眠障がいですわ。そんな寝てる子を起こすともうイライラして友達叩いてみたりと、そういう現象伝えたと医療機関では発達障がいだねってなってしまうんですよ。だから、その辺もやっぱり合わせてやっていかないと、対応どんどん難しくなるなというふうには感じてます。

分離と指摘されたっていう、これ国連なんかで言われてますよね、日本は改善しろと。分離教育は違うぞと。インクルーシブとは違う。でも現場にいと、やっぱ先生達と話すとそこは確かに難しいですよ。スキルが違うんで、一緒にやるっていうのは。で、幼稚園では教科目標がないのである程度やりやすい、そこをさらに縦割りすると、職員の数があって限界ですよ。予算もつかないんでそんなにたくさんは限界があるんですけど、やっぱり同じ子ども達からすると、発達が緩やかな子はやっぱり年下の子とよく遊ぶ。ただそれだと手取足取りしなくても、そのレベルなりのコミュニケーションやったりしてるわけですよ。だから縦割りはすごく有効だなと。同じ年齢でもコミュニケーションはすごく上手、言葉上手の子は、上の子達と交わる中で更にその良さが伸ばせるということで。ただ幼稚園はね、その教科指導の目標がないんでいいんですけども、これは小学校に入るとなるとなかなか難しいだろうなと思うんですが、大きな話を言うと、例えば小学校低学年ぐらいは3年間で見ましようというような感じですからっていうのも何か考えられないかなと。何か今の教育システムっていうのは、同じ子ども達の年齢の形で割って、その年齢の子達はこれだけできないと駄目ですよっていうやっぱその中でこうやってるので、指導する側もそこにいる側もきついと思うんですよ。だからそうすると、少し今のいろいろ他の子ども達にも有効な黒板をすっきりするとか掲示物をシンプルに訴えるというので、この分離からなるべくインクルーシブに近づけようという努力はされてると思うんですけど、そういった大きな枠組みなんか考えていかないと。本当のインクルーシブにはいけないかと、ちょっと現実の社会はみんなごちゃまぜですからね。やっぱそういう方の一番の課題というのは、子どもの時に分離されたがゆえに、うちの子は自分はみんなとは一緒にいられない存在なんだと、一生なんか人に迷惑かけて生きていけなくちゃいけない存在なんだっていうその劣等感というか、自己肯定感の低さ。それが何より一番大きな負の財産で、計算ができるできないとか漢字が書ける書けないは、パソコンがあるわけだから、それは全然大丈夫なわけですよ。何より大きな負になるのは、子どもの時、お前こんなのも話も聞けないのかっていうような友達から先生からの隔離っていう、それで自分は駄目な子と、その負の遺産はずっと生涯続くからですよ。そこを何とかねしてあげられるような再生ができるといいですね。

【都甲教育長】

例えば以前はですよ、子ども会なんかあったり、地域でなにかあったりしましたよね。

【佐藤委員】

そこでまたね、本当地域でいろんな価値観に触れることが、どうしても学校の物差しというのは足し算が出来るか漢字が書けるか、話が聞けるかという物差しで見ざるを得ないんで、地域だと、虫これだけ捕まえてきたかとお前大したやつだねって褒められたりするわけですね。そこが今本当ないからですね。

【都甲教育長】

なかなかその辺が難しいとこですね。

【八木委員】

報告の中に入ってた資料。なんかやっぱりいつも佐藤先生が言われるような、幼稚園の時にそういうのがすごい大事だと。そこで小さいうちからそこでいろんなことを教育しとくと、小学校になったら楽だみたいなことが書いてあったんですけど、こういう感じの幼児向けってないんですか。なんかこう、これは教育委員会とかではわかるんですけど、何かもうちょっとこう小さい子ども達に、こういう先生が参考になるようなものがあればいいのかなと。これ見て思いました。

【都甲教育長】

そこを考えてですよ。文科省は今懸け橋プログラムといって、幼稚園と小学校低学年のね、取り組みをやったりやらないといけないんじゃないかって、やっぱり佐藤委員みたいな方がたくさん幼稚園関係いらっしゃってですよ、そういう声が上がってるんじゃないですかね、国の方でね。

【佐藤委員】

正直幼稚園はバラバラですよ、まだ。

【八木委員】

先生達にも何かお知らせしたいなと思います。

【都甲教育長】

そういう点でうち北郷小学校が指定を受けてやってますので、何かいい取り組みっていうか、何かできればなと思っているところです。

【黒木委員】

このインクルーシブ教育っていうのと、特別支援教育っていうのは、真逆のところにあるのと、私その考え方が逆なところにあるなっていう中で、どっちが大事じゃないんですけど、結局全部同じふうにやっていきましょうってすると先生達も大変だし子ども達も

少なからず戸惑いと、子ども達って馴染んでいくのでそこはいいのかもしれないけど、保護者も戸惑ったりいろんなことがあるんじゃないかっていう中で、やっぱりこの特別支援教室っていうのが大事なんじゃないかなっていうふうに先生達も、全員が全員こういう特別支援について学んでくださるのが保護者としてはすごく安心感はあるんですけど、やっぱりとても特殊だと思うんですよ。いろんな分野があるんで、あそこに特化した先生方とかソーシャルワーカーの方がいてくださる、そういう連携が取れることで安心できるところが、子ども達にも保護者にもあると思うんですけど、このインクルーシブ教育っていうのがすごく不思議。

【福島指導主事】

実際にはその特別な支援が必要な子達っていうのは、特別支援学級も当然いるんですけども、それ以外にもたくさんいるわけなんですね。通常の学級にもいる。その中で、その学級でしかずっといけないとかそういうことではなくて、通常の学級にも交流学級っていうのがありまして、途中で入るということも可能ですし、実際にその対人スキルとかの適応力が高まってくれば、特別支援学級在籍ではなくて、通常学級にいて通級による指導、そういったところ高めていくというようなことも手立てとしてはできますので、本当にその子に一番適した学びの場というのがどこなのかっていうのも私達教師の側が考え、そこにこう支援をしていく必要があるんですけども。

ただ、先程言っていたように、実際にはそういったスキルがまだ高まっていない先生方も当然いらっしゃいますので、そこを校内全体として支援の体制を構築していくということが今学校現場に求められているところになります。ですので、支援、特別に支援が必要な形だけでなく、全ての子ども達に対してどんなことができるのかという先回りの支援っていうんですけど、そういったことを積み重ねていきながら実際にインクルーシブでできる形をどんどん取り入れていく。当然そこには子ども達の意味もありますので、やっぱり少ない環境の方が私はいいなとなった場合にはそちらを優先することもありますし、全部が全部インクルーシブっていうわけではないんですけども、そういった子達がいることで周りの子達が学べる姿勢っていうのは増えるんです。そういったところの共生社会、本当に社会出たらみんな一緒にになりますので、こういった関わり方ができるのかというようなこともですね学んで欲しいところですので、そういったところに検討してこうインクルーシブを今進めているところがあります。

【都甲教育長】

割と学校は細かく子ども達の様子を確認し合う会議を持ってるんですよ。月1ぐらいで。特に特別支援の子達は、年度末が迫ってくるとこの子は通常学級に行けるんじゃないかとかそういう話になってきた場合、スキルが高まってきたから例えばもう中学校なら高校に行ったらそういう特別支援学級がないので、3年生になったら通常学級に行って、そして勉強しながら休憩で特別支援学級、さっき福島が言ったように通級とかしながら

次の高校に向けて準備をしていくという形ですね。

【黒木委員】

子どもが選べるっていう先生方が見守られてる中で、適用できるできないも見られてる上で子どもの気持ちもきちんと見てこのインクルーシブがあるっていうのだったらすごく安心かな。

【都甲教育長】

保護者の方と相談しながらですね。

【黒木委員】

こんな感じでやっていくよってみたいな感じで。

結構出たりするので、その中にやっぱり子どもの気持ちが置いていかれないといいなと。私はもうここで学ぶ方がいいっていう子はそういう場はきちんとあって欲しいし、そういう子達を受け入れる子どもの気持ちを育てるというのは、そういういろんなことを混ざりながら成長していくというのはすごい大事な事だと思うので、どちらの観点からもうすごく気持ちが育つ教育だなんていうふうには今お話しを伺って思います。

【都甲教育長】

逆のパターンで小学校に先程佐藤委員おっしゃったように、幼稚園の時になかなか判断が難しいわけですね。小学校に入ってきてどうかなっていう話になって、学級で観察をして先程言ったエリアコーディネーターあたりに来てもらって様子を見てもらって、やっぱりこの子にとって、そういう違うところで勉強したほうがいいんじゃないかっていう話になって、親御さんと相談しながら入級へというふうに持って行く。そこで一番のハードルはその保護者の方の理解ですね。そこら辺を上手くこうあんまり学校は焦らないようにって言うんです、じっくり時間をかけてやってって。そして上手くいけばそういう学級に入るとか、何かよく小学校がやるのは、ちょっとお試しで何日間かこう週何回かその学級に行ってみようか様子を見ながら親御さんにもその様子を伝えながらやっていくってことですね。その子にとって、本当一番いい学びの場を見つけてやるっていう、大事なことですからね。

【佐藤委員】

身内にやっぱ不安を持ってらっしゃるんですね。

だから特別支援学校に入ってしまうと結局就職先は限られてしまって、障がい者就労枠で入れてもらうか、もうやっぱりどっちかという単調な仕事になってしまう傾向があるので、そこを保護者の方がですね。だから出口もいろいろとその子達の特性や個性が活かせるようなところが広がっていくとですね、安心して保護者の方は預けられるとい

うふうに、だから本当トータルでね、いろいろ難しいですけど。

1 1 議事について

議事 1 令和 6 年度教育基本方針について

(藤岡担当監) (都甲教育長)	令和 6 年度教育基本方針について説明。 これについてはよろしいでしょうか。
--------------------	---

議事 2 他市町村教育委員会との意見交換会

(蛭原主査) (都甲教育長)	他市町村教育委員会との意見交換会について説明 今朝、えびの市の教育長に電話したんですよ。そしたら非常に喜んでくれまして、やっぱなかなか機会がないということですね、またいろんな話ができればなと思って。今日の協議会でお渡ししている資料ですね。あれがうちの教育委員会の取り組みなんですけど、ああいうのを持っていて、あれをもとにまた話をされてもいいのかなと思ったところです。
-------------------	--

1 2 その他

(1) 1 月行事予定について

(2) 第 11 回 教育委員会会議（定例）

- ① 日時 令和 6 年 1 月 25 日（木） 午後 3 時から
- ② 場所 北郷町地域振興センター大会議室

(3) 第 12 回 教育委員会会議（臨時）

- ① 日時 令和 6 年 1 月 25 日（木）定例教育委員会終了後
- ② 場所 北郷町地域振興センター大会議室

(4) 日南市教育委員会表彰式

- ① 日時 令和 6 年 2 月 26 日（月）午後 4 時 20 分から（調整中）
- ② 場所 ふれあい健やかセンター 5 階大会議室

1 3 閉会